大きい字の法話集

今、いのちがあなたを生きている

東本願寺出版

はじめに

真宗大谷派では、「今、いのちがあなたを生きている」というテーマのもと、二〇一一年に宗祖親鸞聖人七百五十回御遠忌法要を厳修いたしました。

本書は、この御遠忌テーマ「今、いのちがあなたを生きている」を主題に、ラジオ放送『東本願寺の時間』において、二〇〇五年六月から二〇一一年

十二月にかけて放送された法話を加筆・修正したものです。

月に一度の同朋会などで、一年をとおしてテーマについての学びを深めていただくことを目的に、十二話を掲載させていただきました。

東日本大震災を契機として、あらためて人間の生きる方向性やいのちの尊厳性が問われる今、御遠忌テーマをとおして、いよいよ宗祖親鸞聖人の教えに

たずねていくことが願われています。

各教区・寺院で勤まる御遠忌法要の記念品や、同朋会等のテキストとしてご活用いただき、より多くの方に、あらためて御遠忌テーマにふれていただくことを願っています。

また、有縁の方々に本書をおすすめいただければ幸いに存じます。

東本願寺出版

※ラジオ放送『東本願寺の時間』は、二〇一五年九月をもって終了いたしました。

目次

わたしとあなた　北海道教区　名畑　格　1
死は穢れにあらず　奥羽教区　園村　義誠　13
出遇わずにおれないいのち　無上尊　奥羽教区　高名　和丸　22
二匹の犬「チビ」の死とわたし　東京教区　海　法龍　31
3・11から思うこと　金沢教区　藤場　芳子　43
御遠忌テーマについて　金沢教区　春秋　賛　53
人間といういのちの相（すがた）　大聖寺教区　佐野　明弘　63
仏さまのおはたらき　名古屋教区　荒山　信　73
今を生きる　長浜教区　黒田　進　82
特別養護老人ホームで　大阪教区　高橋　法信　92
本当の出遇い　長崎教区　寺本　温　103
如来の悲しみ　熊本教区　保々　眞量　114

わたしとあなた

名畑（なばた）　格（いたる）（北海道教区　名願寺（みょうがんじ）住職）

二〇一一（平成二十三）年に宗祖親鸞聖人の七百五十回御遠忌が勤められました。しかし、三月十一日に東日本大震災が起こり、地震・津波・原発の事故という状況の中での御遠忌法要でした。

とき、どうしてもこのようにしか表現できないという言葉が生まれます。

世間の中に生きているわたしたちに世間を超えた真理を表現しようというのですから、思考に合わないのは当たり前です。

もし、このテーマをわたしたちの言葉で普通に表現するなら、「今、わたしがこのいのちを生きている」でしょう。これならよくわかります。当たり前

だといいたくなります。

「わたし」を「いのち」に替え、「いのち」を「あなた」に替えただけで、わからなくなるのはなぜでしょう。

ある研修会で、この御遠忌テーマについてみんなで話し合いをもとうということになりました。あるご婦人が「このテーマはわたしたちの考えていることと主語が違う」と感想を話されました。そうです

ね、主語が「いのち」に替わっているのです。難しいと考えるのは主語が「わたし」ではないからです。

わたしたちは物心がついてから「わたし」を中心にして生きてきました。「これはわたしのもの」「わたしの人生」「わたしの幸せ」「わたしの行為」「わたしの考え」などなど、すべてに「わたし」をつけて生きてきました。そのことに疑いをもったことはありません。

しかし、「わたし」といえるのは物心がついてからですので、生まれたことに責任がもてません。生まれた環境や男であるとか女であるとか、どういう親の元に生まれたかなど、「わたし」を中心に生きる生き方の中ではこういう事柄に責任をもつことができません。せいぜい愚痴がでるぐらいです。自分自身のことなのに責任がもてないことほど辛いことはないのです。

しかし、その辛さや苦悩自体が道を求める心に他なりません。「わたし」がもつ苦悩ならば、消すことも、気晴らしをして無いこととすることも可能です。「いのち」が主語になるということは、消しても消しても消えないものに出遇(あ)うこと、苦悩するいのちに出遇うことなのではないでしょうか。わたしが求めるものではなく、いのち自身が求めるものに目覚めていく、そこに大きな転換があるといえます。

わたしたちは何を求めているのか、すでにわかったことにしています。ですからどうやって手に入れるかに関心が向かいます。しかし本当に何を求めているのか、わかっているのでしょうか。

この「今、いのちがあなたを生きている」というテーマは、わたしたちに主語の転換を求め、わたしたちが本当に何を欲しているのかを明らかにしています。

孤独という言葉があります。元々は中国の孟子(もうし)の